



〈日の出市を楽しむ子どもたち〉

鉢盛おろし

『館報編集委員として』

4月にこの『館報あさひ』の編集委員を拝命してから早いもので、今号が今年最後の発行となりました。そこで、私なりにこの1年を振り返ってみたいと思います。

個人的にはパリオリンピックの開催、そしてそこでの日本人選手の活躍や、メジャーリーグでの大谷選手を始めとする日本人選手の活躍など、スポーツにおいては明るい話題が印象的でした。

一方、他の面に目を向けると、なんといっても元旦の『令和6年能登半島地震』に始まり、過去の記録を更新し続ける大雨や長く暑すぎる夏などの、自然災害の激甚化や異常気象。終わらない国際紛争。こうした様々な要因が絡み合っている物価高。にもかかわらず、相変わらず己の保身しか考えていない（ように見える）政治家への不信。どうにもこうにも目を伏せ、ついついうなだれてしまうような出来事ばかりが思い出されます。

そんな中、視点を変えて『館報編集委員』として1年を振り返ってみて感じたことは、行政・グループ・個人など、ほんとうに多様な村内の人々が規模の大小に関わらず、様々な企画や活動を考え、実行しているんだなということです。

皆さんからは、『自分がやりたいこと、誰かが喜ぶこと、仲間と一緒に楽しみたいことをやる』という前向きな気持ちを感じられて、取材で伺うたびに私自身も元氣のお裾分けをいただけてきました。

そして思いました。うつむいていないで視線を少し上げてみれば、そこには日々の暮らしの中で地に足をつけて『笑顔の種』を蒔こうとしている人たちがいる。その『笑顔の種』を集めて朝日村の皆さんにお届けすること。そしてその種がそれぞれの『笑顔の花』を咲かせたことを皆さんにお知らせすること。それもまた、館報の大切な役割ではないのかなと。

来年もまた、朝日村にたくさんのお素敵な『笑顔の花』を咲かせるお手伝いができればいいなと願っています。どうぞ引き続き、館報の取材作成にご理解ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

2024

朝日村文化祭

11月2日(土)・11月3日(日)に、

令和6年度朝日村文化祭が開催されました。初日の土曜日はあいにくの雨模様となり、当初屋外で予定されていた企画、出店などは全てトレセン内に場所を移しての開催となりました。

荒天ではありませんでしたが、10時のオープニングセレモニー時には多くの人がアリーナに集まり、主催者や村長の挨拶に続いての朝日鉢盛太鼓と鉢盛中学校生徒有志の皆さんによる、迫力と華やかさのある呼び込み太鼓で、会場の雰囲気も一気に雨空を吹き飛ばすような明るい雰囲気になりました。



呼び込み太鼓



JAによるもちなげ

今年朝日支所JAまつりとの合同開催ということで、アリーナで行われた『もちなげ』による一層の賑わいのなか、展示されている皆さんの絵画、写真、書、造形物など様々な作品を見学させていただきました。

図書館へと場所

を移すと、こちらもやはり雨の影響で本来館外も使って行はずのイベント『かくしたのだあれ?』を急ぎ図書館内で実施していましたが、関係者皆さんのご尽力で大きな混乱もなく、私が訪れた11時頃には定員20名のところすでに19名の子ども達に参加しているという盛況ぶりでした。

隣のマルチメディアセンターでは恒例の中古本のプレゼント会とともに、皆さんから募った『平和のメッセージ』が展示されていて、ひとりひとりの平和への想いが伝わってきて胸が熱くなりました。こちらの展示はまだ継続されるようなので、まだご覧になっていない方は、ぜひ図書館を訪ねてみてください。

午後1時からはステージ発表が行われました。1組目の朝日小学校金管バンドによるステージドリルに感心し、コーラスひまわりの皆さんの涼やかな歌声に癒やされ、消防団ラッパ隊による勇壮

でありながら軽やかな演奏に心躍らせ、サンライズの子どもの達の可愛らしくもかっこいいダンスに思わず頬が緩みました。最後に登場したのは三味線講座受講生の皆さん。三味線の、シンプルなのに音が絡み合うことで複雑な音色が生まれる様には驚かされました。そして大トリには朝日民謡クラブの皆さんとのコラボがあり、朝日村で生まれた『朝日小唄』でステージは締めくくられました。そのほかにも紙面ではご紹介しきれない、楽しく興味深い出展がたくさんあり、あっという間に初日は終了の時間となりました。

『文化』と聞くと、な

にやら大層なもののように感じてしまいます。けれども、誰かが何かに興味を持ち、行動する。それに共鳴した誰かが一人二人と集まれば、そこに文化が生まれる。朝日村にさらに幅広く奥深い文化が生まれれば、もっと楽しい村になるだろうな。そんなことを感じた、とても有意義な文化祭の初日でした。



三味線講座の発表



サンライズによるダンス

文化講演会

前日の大雨も収まり、秋晴れに恵まれた11月3日(日)に、文化講演会が朝日村中央公民館、講堂にて開催されました。会場の席もほとんど満席状態でした。

講師は、元NHKアナウンサーの国井雅比古氏をお迎えしてお話していただきました。

皆さんご存知かと思いますが、NHKの「小さな旅」や「プロジェクトX」挑戦者たち」などの人気番組を担当された方です。

演題は、「小さな旅とトレッキング」苦手な山が教えてくれた」でした。

最初に趣味についての説明が在りまして好きな事は、溪流釣りとお酒を飲む事、シャソソソだそう。56歳から66歳まで10年間「小さな旅」を担当されて春と秋に山登りもされていたのですが実は登山は、嫌いだったそうです。テレビを見ていて山が好きだと思っていたので少しびっくりしました。残念ながら朝日村に来た事は無く、松本や上

高地へ行く時が最接近だったようです。

長野県の山も幾つか取材されていて、上高地の霞沢岳、白馬鍾ヶ岳、乗鞍岳に行かれたそう。が、過酷な撮影で朝も早く帰日も遅いため観光地を楽しむ時間は、ほとんど無くコンビニ弁当を食べる事が多かったそうです。

NHK退職後にNPO法人日本トレッキング協会会長もされて、4200メートルのヒマラヤの登山もされたそうです。

楽しい話や苦労した話、ご家族や病気の話など、普段聞けない話が多く国井先生の軽快なトークで、会場も大いに盛り上がりました。

国井先生お話の中でとても印象に残っているのは甲斐駒ヶ岳・黒戸尾根の話が出たときに本の朗読をしていたこと。講演会のお話の声と違い75歳になられるそうですが、素晴らしい素敵な声でまさにNHKの「小さな旅」で聞いた声で感動しました。他の方々も同じ気持ちだったらしく、最後にアンコールで朗読をしていただきました。何度聞いても良い声でした。

講演会を聞いてすごく大変そうですが、自分も甲斐駒ヶ岳の黒戸尾根に行ってみたくなりました。



国井雅比古氏

表彰式

11月3日(日)に、令和6年度朝日村表彰式が中央公民館講堂で開催されました。今年度の受賞者は、左記の方々になります。

【表彰状】

◆三村 みき子 氏

長きに亘り、みむら歯科医院を開業され、専門的立場から健康村事業・地域ケア会議にて助言をいただき、村民の健康管理に尽力された

【感謝状】

◆株式会社テレビ松本ケーブルビジョン様
篤志な寄付行為をされた(朝日小学校150周年記念事業の体育館スクリーン整備に活用)

◆清沢土建株式会社様
篤志な寄付行為をされた(朝日小学校150周年記念事業の体育館整備に活用)

◆カンロ株式会社様
毎年創業記念日にあわせ、飴やグミを村内の教育・福祉施設に寄贈された

◆柳澤 一実 氏

朝日美術館企画展「美に求めるもの―柳沢健とその時代」に出品するため借用した柳沢健(父)の作品28点及びコレクション作品54点等を美術館に寄贈された

サラダの里通信



あさひ保育園 運動会

10月2日(水)、あさひ保育園園庭において、保育園の運動会が開催されました。

9時過ぎに教育長のお話から運動会がスタートし、11時過ぎまでの約2時間で、全9種目が行われました。天候にも恵まれ、30℃近くまで気温が上昇する中、うさぎ組(年少)、ばんだ組(年中)、きりん組(年長)それぞれがリズムやかけっこ、玉入れ、リレー、ストレッチなどをして運動を楽しみました。

今年は、父母参加型の種目も取り入れられ、園長先生や父母がハンター姿に扮して種目に参加すると、会場は大いに盛り上がりしました。

最後に披露されたきりん組の大きな旗を使ったリズムダンスは、圧巻でした。



第74 回朝日村体育祭スポーツ・フェスティバル

10月14日(月)第74回朝日村体育祭スポーツ・フェスティバルが行われました。

このスポーツ・フェスティバルは自由参加のスポーツ体験イベントで、分館對抗形式から変わって今年で3回目となります。

過去2年は雨天のため屋外の種目は見送られましたが、この日は天気にも恵まれ、屋内外でソフトバレー、なわとび、ウォーキング、グランドゴルフ、ソフトテニス、モルック、体力測定など予定していた12種目全てが行われ、幼児からシニアまで約150人の方がさまざまなスポーツを体験し、楽しく体を動かしていました。

各種目には村内クラブ、愛好会、スポーツ推進委員、体育部等の皆さんが指導者となっており、スポーツを盛り上げていました。

また、ガンズ君も来場し会場は大盛り上がりとなりました。心地よい汗を流した帰りには参加賞もあり、参加した皆さんは、イベントに満足していました。



第26 回朝日村民ゴルフ大会

10月20日(日)、朝日村公民館主催の第26回朝日村民ゴルフ大会が塩尻市の塩嶺カントリークラブで開催されました。りんどう、すずらん、しらかばの各コースを1組目が9時15分に一斉にスタートしました。14組、合計53名の方々が今大会に参加しました。

当日は、それまでの季節外れの暖かさから一変し、この時期らしく冷え、時折強い風も吹いていました。一日を通してあまり暖かくなることはありませんでしたが、季節の移り変わりを実感しました。

プレー終了後、会場を中央公民館講堂へと移し、盛大に表彰式が行われました。

優勝 舞原光登さん

準優勝 小坂昇さん

ベストグロス賞 武田民治さん

最後に百瀬教育長が「ゴルフ

大会がずっと

と続くように

に」と万歳

三唱で締め

ました。



朝日小金管バンド塩筑南部地区吹奏楽祭 朝日小学校開校 150 周年記念音楽会

10月13日(日)、塩尻市のレザンホールで第47回塩筑南部地区吹奏楽祭が開催され、朝日小金管バンドが参加しました。この吹奏楽祭は塩筑地域の南部小中学校の金管バンド・吹奏楽部の児童・生徒が集い、コンクールではなく日頃の練習の成果を発表し音楽を通しての交流を目的に毎年開催されています。朝日小金管バンドは6年生21名、5年生14名、4年生12名、計47名で編成され毎朝始業前の30分間練習しています。これまでの演奏活動は朝日村お夏まつりをはじめ、朝日小音楽会や文化祭等で演奏をしてきました。今回の演奏は本格的なホールと言う事もありメンバーはいつも以上に胸を弾ませていました。プログラムは参加16校が1部と2部の入れ替え制で演奏し、朝日小は2部のオープニングを務めデイズニー作品の「プリンセスメドレー2」を演奏。通常の演奏にフォーメンションを加えたダイナミックで難易度が高い演奏に会場中から賛美の拍手が送られました。演奏後、客席に戻ってきたメンバーに安堵の笑顔が見られ大舞台の演奏が無事終了しました。これからも音楽活動を通して更に進歩・発展・前進をしていってほしいと思います。

また、10月25日(金)小学校講堂にて開校150周年記念音楽会が開催されました。各学年が自分たちで選曲をした歌を合唱して、参観の保護者の皆さんや地域の人たちに披露し、学びやの節目を祝いました。児童たちのピュアでひたむきな演奏や歌声は、来場の皆さんの心に染みいったと思います。これはそのメロディや歌声がきくと自分たちの未来を歌っていたから…。そうに違いありません。小学生の皆さん、たくさん練習を重ねたのでしよう。素晴らしい音楽会でしたよ。感動をありがとう。



シリーズ発見！朝日人②



朝日村観光協会
事務局長
上條喜美雄さん(70)

生時代は生粋のラグーマン。それもポジションが「プロップ」という事で、これは試合中スクラムを組んだ時に、敵方に一番ぐしゃぐしゃにされる場所だそうです、そのせいなのかどうなのか普段のご面相はお世辞にも…。でもご覧の通り、愛嬌たっぷりの笑顔をお持ちでいらつしやいます。

また、染み付いた『ワン・フォー・オール』の精神なのか、関わった仕事は数知れず。公務以外でも様々な所でお働きなされた模様です。伝説の「サマー・ナイト・フェスティバル」も仕掛人の1人、東日本大震災の折には宮城県山本町に3年もの間支援出向なされ、もう朝日には帰らないんじゃないか…？との噂も流れた程です、(働きがいいので離して貰えなかったのだ…本人談)。公民館報にも携わり、私達の大先輩でもいらつしやいます。とにかく徹底した現場主義。絡んだ仕事は何がなんでもやり遂げる！というバイタリテイの持ち主で、まつりの影に喜美雄あり！とも言われた人です。そんな朝日村のスーパードタバタ・マンも此の度めでたく古希をお迎えになられ、いよいよその荷物を降ろされる時が来たようです。喜美雄さん永い間の御苦労本当にお疲れ様でした。これからは好きなお酒を楽しみながら、少しはのんびりとして下さいね。

(とは言いつつも きっと何処かでもまた どたばた走り回っているのでしょうね…)

長年に渡り、役場勤務にて村運営に関わって来られましたので、皆さん良くご存知かと思いますが、現在は観光協会事務局にお勤めです。学

熊久保だより

「朝日美術館・民俗資料館発行」

令和6年度

展覧会報告

4月4日～5月26日

美に求めるもの

柳沢健とその時代

戦後復興期から松本を拠点に活躍した洋画家、柳沢健の作品と、柳沢が収集した作品・書籍約120点をご覧いただきました。

長野県展や中信美術展に欠かさず出品を続け、春陽会審査員も務め、郷土美術の発展



柳沢健さんの田園風景に懐かしさを感じます

に大きく寄与した柳沢の制作初期から晩年までの作品を一堂に展示しました。



県内の美術史をたどる貴重な資料が並びます

前回2009年に開催した展覧会「心の原風景」を鑑賞した人は「柳沢先生の風景画を観ていると自然と涙があふれてしまった」と本展覧会へ足を運んだ理由を話されました。

柳沢コレクションとも言える収集作品は、柳沢が自身の学びのために集めた前川千帆、木村荘八、滝川太郎、関

四郎五郎ほか錚々たる作家による絵画・版画・彫刻作品。美術書籍は今では入手困難なものもあり、資料としても価値が高いものでした。柳沢作品と併せ、画集など手に取りじつくりと目を通す来館者も多かった展覧会でした。

6月6日～6月23日

収蔵作品展 描くよろこび、

平和へのメッセージ



会場で学芸員の解説を聞く皆さん

当館が収蔵している作品の中から平和をテーマに作家の体験、思いなどを足掛かりに作品をご覧いただきました。

鑑賞者からは「作品にはさまざまな思いが込められていることがわかった。美しいだ

けではない。なぜこのように描こうとしたのか、考えることも大切だと感じた」と感想がありました。

会期中「あなたからの平和へのメッセージ」を来館者から募り、自分の考える言葉で平和への思いを綴り、次へとつなぐことができました。

7月6日～8月25日

こっぱ人形つてななに？

徳武忠造がつなぐ農民美術のいま

農民美術作家である徳武忠造氏は農民美術の継承者として様々な取り組みを行っています。多くの受講生が徳武氏のもとへ集いこっぱ人形制作指導を受けています。

本展では徳武氏の制作したこっぱ人形、レリーフ作品と、受講生制作のこっぱ人形作品を中心に、農民美術運動初期の頃とされるこっぱ人形など他館から借用した貴重な作品も紹介しました。作品数は約500点を超える規模となりました。

7月21日にはギャラリートークとワークショップが行われました。午前中は、徳武氏と、白鷗大学教育学部で保育学・教育学を専門とする有馬知江美教授が「木彫こっぱ人形づくりが教えてくれるもの」と題して、ギャラリートークを行いました。こっぱ人形や農民美術の魅力について28名が聞き入りました。



農民美術を語る徳武氏④と有馬教授

午後から徳武氏指導のもと11名が「こっぱ人形づくり」にチャレンジしました。2時間半の限られた講座時間で、小さな女の子の人形に衣服や履物、髪型まで彫り込みました。参加した子ども5名、県外の参加者3名も暑さを忘れ

て夢中になりました。「今日
はとても楽しい一日を過ごす
ことができた」と笑顔いつぱ
いの感想を聞くことができました。



「こっぱ人形」を制作する参加者

この日は、作家の協力を得
て一日限定で会場全体像のみ
撮影可能とし、多くの来館者
が展覧会の模様を撮影し、S
NSでも発信しました。

会期後半には「こっぱ人形
入門ばなし」と題し、展示作
品の見どころなどを学芸員が
解説する試みを行いました。

9月7日～9月29日

上條俊介コレクション展

朝日村出身の彫刻家上條俊
介の収蔵作品50点を一堂に、

また戦没した上原良司兄弟の
父から依頼され、俊介が制作
した〈上原三兄弟像〉をご遺
族からお借りして特別展示し
ました。

本展では石膏像原形作品と
鑄造されたブロンズ作品を並
べ、比較できるよう展示を行
いました。また、松本地域に
モニメントとして設置され
ている作品の石膏原型作品も
展示し、多くの鑑賞者が身近
にある俊介作品を改めて知る
機会となりました。

俊介命日である9月11日に
は美術館無料開放と学芸員に
よるギャラリートークが行わ
れました。

会期中は「上條俊介作品を
まなぼう」スタンプラリーを



上條俊介の作品が多数展示されました

行い、縄文むら公園など普段
目にしている作品を学ぶ機会
となりました。朝日小の児童
や村内外の人がチャレンジ
し、正解スタンプを集めて美
術館から記念品の「ポスト
カード」が贈られました。

開催中の展覧会案内

10月12日～11月24日

柳澤観風・三村悠紀

生誕記念特別展

日本画と歩んだ日々

朝日村にゆかりのある日本
画家、柳澤観風は生誕130
年、三村悠紀は100年を迎
えました。当館収蔵作品のみ
ならず、ご遺族のご厚意で多
くの作品をお預かりし、75点
を展示します。日本画の制作
課程を示す資料作品や、師事
した作家作品も併せてご覧い
ただけます。

これからの展覧会案内

12月7日～12月27日

R6ベストセレクション展

朝日美術館収蔵作品から選
んだ作品を展示します。

12月28日～R7年1月17日

美術館は冬期休館します。

1月18日～2月2日

鉢盛中学校美術部他生徒の
みなさんの作品展を予定して
います。

2月8日～2月24日

あさひっこ展

朝日小学校児童のみなさん
の力作をご覧ください。

美術館収蔵品紹介⑥

新聞小説の挿絵原画

新聞に小説が連載されるよ
うになったのは明治10年ころ
に遡るようです。そこには挿
絵も付けられていました。当
初は浮世絵師が起用されてい
ましたが、明治30年代以降、
印刷技術は木版から写真製版
へと変化すると、画家も挿絵
を手がけるようになります。
今回ご紹介するのは昭和32

年頃、里山辺の洋画家・柳沢
健が「毎夕タイムス」（33年
廃刊）の新聞小説に掲載して
いた挿絵の原画です。

柳沢は100年の歴史を持
つ美術団体の春陽会に所属し
ていましたが、団体創立にか
かわった石井鶴三、木村莊八、
中川一政などの先輩作家たち
も大手新聞で手掛けていた新
聞小説の挿絵の仕事で地元紙
で担当していました。

それは収入のための仕事で
もありましたが、木村が「挿
絵の仕事は、何十万を相手に
毎日展覧会をやっているよう
なものだ」と言うように、自
分の腕を磨く鍛錬の場だった
のかも知れません。



窓口情報

※本人の了承を得て記載しています。

おめでた

地区名	氏名	月日	父	母
古見	加藤 心音	10・10	和弘	玲奈
旭ヶ丘	二茅 陽椰	10・10	星嵐	愛未
旭ヶ丘	二茅 聖絆	10・10	星嵐	愛未

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
下古見	上條 務	75	上條美枝子
下古見	上條 照夫	93	本人
芦之久保	上條 隆久	94	本人
南下	武田 浩	67	武田 裕子
下組	曾根 さわ子	90	曾根 正志
本郷	鈴木 寿美子	75	鈴木 卓雄
新田下	片岡 コヨカ	96	片岡耕二郎
上組	青柳 英子	89	青柳 文彦



犬との時間

我が家に突然2代目ワンコがやって来ました。現在は7ヶ月目になった我が子。それはもうおてんばで元気いっぱいです。朝起きてリビングへ行くとしっぽを振りながら走ってきます。夕方仕事から帰ってくるとケージから飛び出して「寂しかったよー」と言わんばかりの高くてかわいい声で歓迎してくれます。ひとしきり歓迎が終わりご飯を食べた後はおもちゃを持ってきて飽きるまで一緒に遊びます。おもちゃをくわえて持ってくる姿はとても可愛く愛おし

いです。沢山遊び、疲れると電池がきたようにボタンと寝てしまいます。必ず誰かの側でくっついて寝ます。そうしてあつという間に時間が過ぎていきます。犬との時間は長いようで短いことを先代の子が教えてくれました。どんなに一緒にいたいと願っても先に旅立ってしまいます。なので家に来てくれた2代目の子との時間を大切にしたいと思っています

お台所 エッセイ

①64 S.T

みんなのアトリエ



朝日小学校3年1組

原 唯人さん

「夜空の上の宝石」

工夫したところは、上の部分に布を重ねたところ。



朝日小学校2年2組

三村 咲さん

「もりもりリボンうさちゃん」

くふうしたところは、いっぱいリボンをつけたところ。



朝日小学校5年1組

高橋 湊一さん

「花を見るぼく」

土と花を塗り分けて、わかりやすいようにしました。